

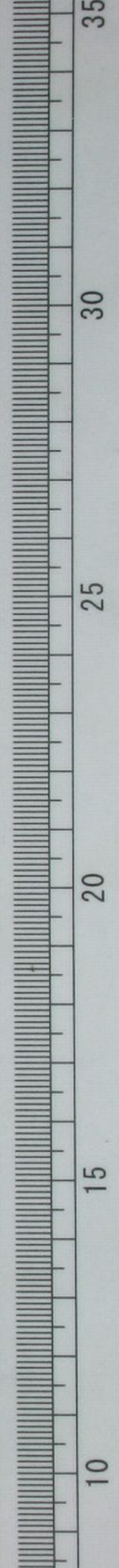


天水抄

乾
押



津田文庫
 文庫 1
~~1695~~
 1629



心連を心風神と今成の宗をいふその事片指いふ

席通
標帽
頭服

題席
流香
冒

口題
反世
腰

五音茶師
日月

七胎 弥勤

五天 釋迦
裳
八幡
中央

冠
天照大神
東

衣
春日明神
南

裳
八幡
中央

日明
曲證
尾

口集
足

七胎 大日

七胎 地藏

皆
西
任吉

天神
地

たけ通と多別して分又後分の夜を追言能て意味倍よ
義理の才なきも丸相傳の色の口傳れとて是を
折るは師道の修る如く此法を授けし一丈一尺
名之人に人よりわかれし人ありしは道とて
おとよのちあるおとよの道とお傳し事とわかれし
一人の者人言人福祐の仁なりやの法方にお傳し
道の是もは悟りて目も度りなり其の根あり道を
信じていひていひていひていひていひていひて
来し道の道すいふはいつて及を破るよのちも
師を宗とてやて十とてやれども悪人のこゝろ
はよく形い師恩と云れぬ志なきはを此利根
心通かめぬもあらずしは方とては是れ也

八
閑人目を見名前の傳る光澤院殿と其死一終とて其
一奇一そのと時かへてししと其智あるとてししと其
ししと其智あるとてししと其智あるとてししと其
と其智あるとてししと其智あるとてししと其智
け抄のてやうにやうなる事の上にあると其の
ししと其智あるとてししと其智あるとてししと其
てぬる事目とてししと其智あるとてししと其智
傳るしと其智あるとてししと其智あるとてししと其
かゝるしと其智あるとてししと其智あるとてししと其
けぬるしと其智あるとてししと其智あるとてししと其
そまゝの而遠めぬるしと其智あるとてししと其智

檀那の弟の如く師の意に依り檀那又其の如く其の
邪師を斬り地獄に落し其の如く其の如く其の如く
家々を傳へ其の如く其の如く其の如く其の如く其の
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の
傳へ其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の
も其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の
人の稀なるしと其智あるとてししと其智あるとてししと其
和号を師とてししと其智あるとてししと其智あるとてししと其
根源を記ししと其智あるとてししと其智あるとてししと其
とて其智あるとてししと其智あるとてししと其智あるとてししと其
記すも其世の自見の如く我しと其智あるとてししと其智

今迄の事又後方其口傳とて事よも其後孫が大概り
物に定まらざる事沙汰傳の事あり或時出法考ら
沙汰の人とて沙汰を沙汰の及ぬ老人と九二人と自其の言
る事ある事沙汰子の口傳とてヤケ後とて沙汰傳を其後
とらうかたゆけし事とて口傳とて然る事ありていふ
とも二條殿の事とて返す事とて沙汰傳を其後
けり時々の事とて大方子知人ありて其後傳を其後
ありていふ事とて傳傳とて其の事とて沙汰傳を其後

な記人のむしの洞まぐちにて
いふことありて神ありて

はち事、終る事とて傳とて又傳傳ありてけり事とて神
奇大概の切伝百人一首の事とて雨中坐事記ありて

伊勢物語の裏の伝は其の大事、八重神海の口伝之邦の
化現傳也物語の之止観の説志の物語の奇人の事とて
思ふ事とてその事とて後傳とて傳傳とていふ事とて
教ありて事とて九條禪定殿の事とていふ事とて
取し事とて殿中の事とて沙汰傳とて道遠院殿の事とて
伝傳とて之事とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて
カひ事とていふ事とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて
後傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳
傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳傳
かひ事とていふ事とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて
その事とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて
の事とていふ事とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて傳傳とて

有らざる者の義理なるはゆるる者ありあまざる者あり
んかひいふことばあまよのそ自らんてまの道
あらんとするものありい道いふよりまをたふあり
かやまをたふはゆるそ又新説のほいふことばあまよ又
王代筆代の名目を九に敵りま出はるるまあはゆるては
中代入るるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
お人の名目と巻数の清中よりまのまをたふ或は和音の
席を極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
命の命あはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
て極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
いふも自らの人に初射由れまにままままままままままま
いふも自らの人に初射由れまにままままままままままま

有らざる者の義理なるはゆるる者ありあまざる者あり
んかひいふことばあまよのそ自らんてまの道
あらんとするものありい道いふよりまをたふあり
かやまをたふはゆるそ又新説のほいふことばあまよ又
王代筆代の名目を九に敵りま出はるるまあはゆるては
中代入るるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
お人の名目と巻数の清中よりまのまをたふ或は和音の
席を極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
命の命あはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
て極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
いふも自らの人に初射由れまにままままままままままま
いふも自らの人に初射由れまにままままままままままま

此の人おまへお孫まへ——は道ハせらるる——ありて後ハ人
人丸の御心と考之傍りき君之の御心と定おん是
力ハ——世の孫ハ——世成——と後世に傳けられた
は——世成——の末に記す——は——後世に傳けられた
是れ用あり——は——世成——の御心と推考
ま——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
い——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
や——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
和子ありて——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
御心成雖貴兼相將富餘金銭る皆未磨士中為
減於世上遍為後世彼知者唯和分之人而已餘諸の事と
書し——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考

と新發一川はありて——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
ありて——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
男ハ世成——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
一書を——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
法性ハ根ハ世成——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
昔如悔——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
乞食百信——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
か——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
新發一川はありて——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
の凡夫の為ハ世成——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
悔——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考
書——は——世成——の御心と推考——は——世成——の御心と推考

又まのあ〜お交〜おせぬのぬ〜けてまよ行〜
是れ口傳の句〜(せむいせむいせむい)

一 歌のやねも〜おあ〜おら〜おら〜

又〜おあ〜おら〜おら〜

一 てもお〜おら〜おら〜

〜おら〜おら〜

一 てもお〜おら〜おら〜

石早お〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

一 口合のや〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

首端のや〜おら〜おら〜

後とあ〜おら〜おら〜

ら

一 て聞の事 哉 何、そよは字の上をさ〜

さ〜おら〜おら〜

何の語〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

又お〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

お〜おら〜おら〜

又お〜おら〜おら〜

善 山原く〜おら〜おら〜

悪 里をくしつとらふあふ海も
巾の句とあぢき字行あし

はき縁丸のあはさるる

一 巾の句とあぢき字行あし

あはさるる

とらふあぢき字行あし

あはさるる

巾の句とあぢき字行あし

あはさるる

一 巾の句とあぢき字行あし

一 平句とあぢき字行あし

あはさるる

この世の口徳

一 自ら

一 代

一 巾

一 見

一 賢

一 法

口徳

右巻く真子巾 忽ち巾のあはさるる代や
代見有るあぢき神意思はあはさるる

天水抄

一
神

慶安五年三月吉日
雞冠井良德在列

天水巻之下

良薬共

りのこ出毎法中法巻若ありとされ一何何とあり
由初を前白まして南有なる中白身付一何
よのまかしのこまひよのまかおまひ出て
免れハ今何をなすあ付よとや白
おろしめて同一と事那を
海川にまきしりさハまれ

考ひあまやがととめぬ及白一
坤の部の人の中部と神ま
一射のまの彼の白身
ちまひひるま

つとむ〜あゝ海をいふれり地を
傍ありて **七**もよみよむのまて
兼て〜り我のまて〜 **八**の枝
よりほとあら入板や〜の同
口 **九**のまて終やあゝ〜 **十**の草
すけい **十一**の目のかつ〜 **十二**の
連音二白あ〜のや〜 **十三**の
し〜のまて〜して〜れゆい後
編の〜れ目や〜のまて〜
むきや〜の **十四**のけはらも **十五**の皮
あ川の **十六**のあひき〜 **十七**の
後人の **十八**の **十九**の **二十**の

廿一の **廿二**の **廿三**の **廿四**の **廿五**の
あゝの **廿六**の **廿七**の **廿八**の **廿九**の
山 **三十**の **三十一**の **三十二**の **三十三**の
王子 **三十四**の **三十五**の **三十六**の **三十七**の
御 **三十八**の **三十九**の **四十**の **四十一**の
子 **四十二**の **四十三**の **四十四**の **四十五**の
死 **四十六**の **四十七**の **四十八**の **四十九**の
五十の **五十一**の **五十二**の **五十三**の **五十四**の
世 **五十五**の **五十六**の **五十七**の **五十八**の **五十九**の
ま **六十**の **六十一**の **六十二**の **六十三**の **六十四**の
ま **六十五**の **六十六**の **六十七**の **六十八**の **六十九**の
ま **七十**の **七十一**の **七十二**の **七十三**の **七十四**の
ま **七十五**の **七十六**の **七十七**の **七十八**の **七十九**の
ま **八十**の **八十一**の **八十二**の **八十三**の **八十四**の
ま **八十五**の **八十六**の **八十七**の **八十八**の **八十九**の
ま **九十**の **九十一**の **九十二**の **九十三**の **九十四**の
ま **九十五**の **九十六**の **九十七**の **九十八**の **九十九**の
ま **百**の

三〇 老人
 四〇
 五〇
 六〇
 七〇 才之書曰
 八〇 老人上
 九〇
 十〇 師を
 考へん

七〇 の人
 九〇 の人
 八〇 の人
 二〇 の人
 五〇 の人
 四〇 の人
 一〇 の人
 七〇 の人
 十〇 の人
 一〇 の人
 四〇 の人
 若代
 同若代
 二〇 の人
 二〇 の人

古語の二三、此者の名あり

一 四角目並八角目ありの事

方ままういせりて名をとて紙名あてる

一 花は梅をけし事

以ゆのものゆて梅の花にあり本何本
 兼ち梅は梅をけし事

一 梅は花の事

あふよりて人のやうに
 知らず人母の事

一 梅柳花

草は花のけや能くわひひてき

一 草のるまは草のるまは事

けして梅

一 草のるまは草のるまは梅をけし事

一 従軍は従軍切の事

一 物の名を梅柳木は物

一 物の字を海増はのて少をを海増の事

梅海増の初は木体初まは又はの事

梅海増十の宛宛と云又十の宛宛と云

梅海増十の宛宛と云

田子の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

一 秋の夕ぐれに花の浦に打ちこぼれし花の

一 花の浦に打ちこぼれし花の

海の色に花の浦に打ちこぼれし花の

一月をのり花の浦に打ちこぼれし花の

あし

あしは花の浦に打ちこぼれし花の

一 花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

一 花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

一 花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

一 花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

花の浦に打ちこぼれし花の

のうけあつかい
はま

ちあき等の書物はよく分類して

一 奇書と御書と文の奥子と又神書の古本

白二回二とちくま

志乃ひ糸

のち

まろあぬ

まろあぬ

あむあ

あむあ

あむあ

物のつら

一 内裏院家なる神書の懐紙の上代色くさ

文書もを以て文書の傳はる

大臣家諸御家の上代色をも又

ある人のとていかに

一 御書なるに

あむあ

一 古御書

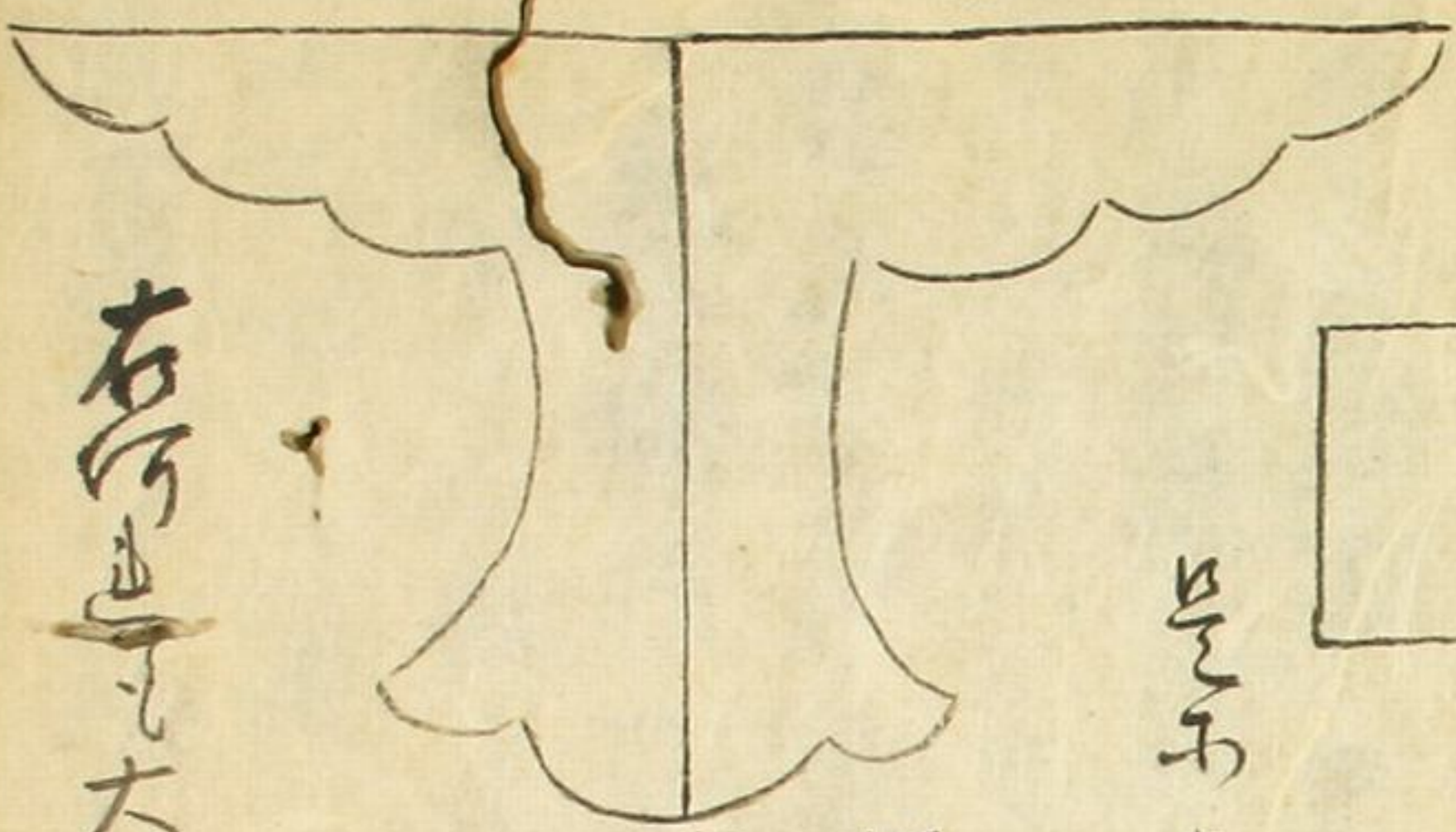
あむあ

あむあ

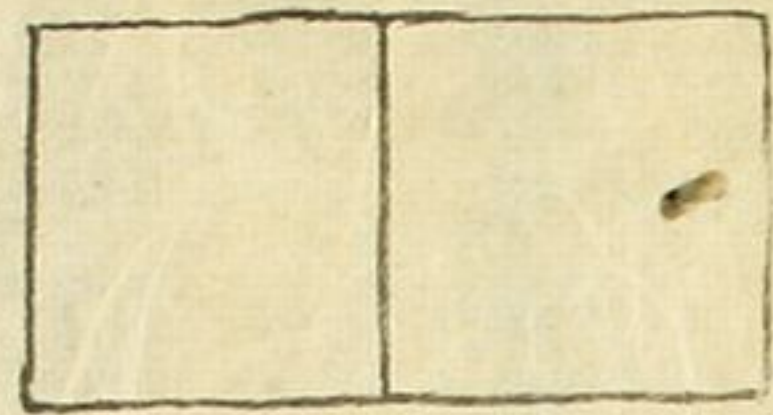
一 通紙書

あむあ

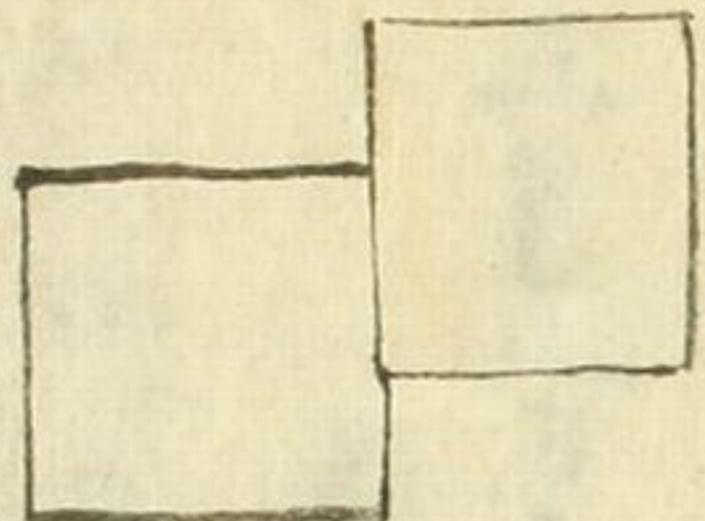
法 寸 之 臺 文



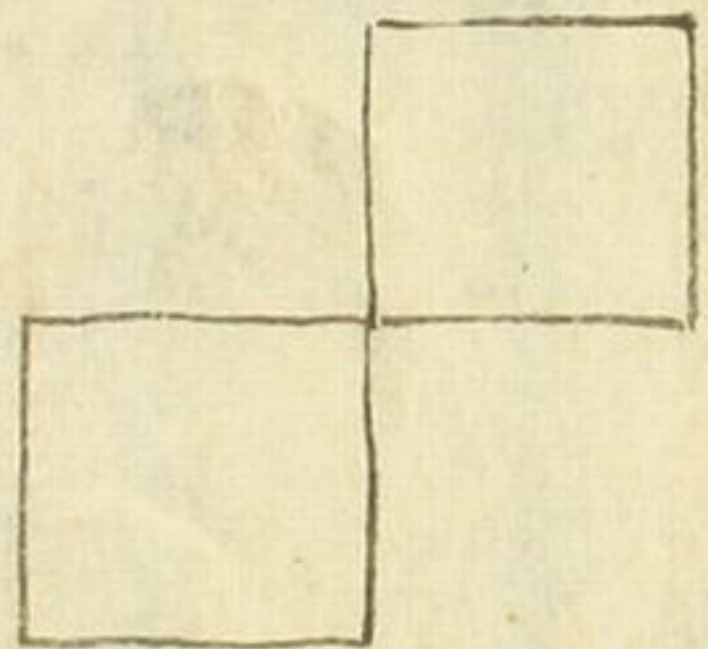
長



半



角



大形也

是亦亦家

豊一尺五寸也横一尺九寸但筆は
五分卯一名木のちりま

板の厚サ三分半

是のちりまは色紙は定反
三分半寸五分

右の曲り大工曲りよき極

りてききと書(き)ありし

色紙紙冊寸法之申

一 大色紙ハ豊六寸五分

三分半りと象
又分仙と書

横二寸五分

口傳

又中色紙ハ大ニ色の中ととらる

右大色紙ハ豊六寸五分横二寸五分

一 大紙冊ハ豊六寸五分の子紙紙はさかろりて横二寸五分

之又豊六寸五分ととらる

一 小紙冊ハ豊六寸五分横五分

大つりきし大工の曲りよき寸を極

色紙紙冊ハ豊六寸五分横五分

一 長 角 半角長

角長五分

此一卷者老師長頭翁之真藏也拳世爭我他彼
此老師遂輯此道之至要名曰大水蓋欲使其渾
溢融也中雖不敏遊其門下師事之于是有年矣
日進曰願許一卷為其守教也而誓約老師不得止
許之中受喜甚於是卷師懷之也今子慕風推
高於山阻山川之需深於海而盟詞及數條中感其志
而無地默止故容之庶幾守窮乎清全躰之而守
守矣敬哉子跋之與富永民燕石子

洛陽住

于時慶安五年三月吉日

鷄冠井九節右衛門尉

良德在判

右者此磁子乞銀石之

天保七丙申年

水守中月中旬



